

森田秋子(編著), 運動・認知・行動研究会(著)

PT・OT・STのための脳損傷の回復期 リハビリテーション—運動・認知・行動 からのアプローチ

半田一登

(公益社団法人 日本理学療法士協会)

2012 年 2 月の中医協の会議で、「急性期医療」の“急性期”の意味が医療界で定義づけられていないことが判明し、私は大いに驚いた。ならば、回復期の定義は何なのかという疑問を抱きながら本書を読み始めた。

本書の中で強く感じられるコンセプトはチーム医療という視点である。3 年前にチーム医療推進協議会という組織が誕生し、私は役職の一端を担っている。そこで感じられることは、われわれリハビリテーション(以下、リハビリ)関連職種はリハビリ医療という分野でチーム医療を看板にしているが、意外と閉鎖的な壁の中で終始しているように感じている。臨床現場にあって、理学療法士と言えども、作業療法や言語聴覚療法を十分に理解しているとは言い難いところがあ

る。そのことがつまらぬ混乱を招き、チーム医療の阻害因子になっている。その視点から、理学療法士であっても本書の作業療法や言語聴覚療法の部分も熟読することによって、相互理解を高めるチャンスを本書は提供している。

一方、日本理学療法士協会の会員も急増し、2012 年 3 月時点で 78,000 人を超えており、その多くが臨床活動に従事している。この急増する理学療法士の理学療法法の質を担保することが喫緊の課題となっている。その視点で本書をみると、基本概念・障害像のとらえ方・治療方法等を標準化させる意図が強く感じられる。「医科点数表の解釈」では、リハビリ医療は理学療法・作業療法・言語聴覚療法という治療法によって成り立つとされている。“治療としての理学療法”, “治療としての作業療法”, “治療としての言語聴覚療法”を確立する努力が求められる。

本書を読み終えて、編著方針とは異なるかもしれないが、臨床経験が乏しく、自分自身の臨床像が定まらない臨床理学療法士に指針を与え得る書籍であると確信している。

●B5 判・220 頁

定価 3,780 円(本体 3,600 円+税)

2012 年 三輪書店・刊